

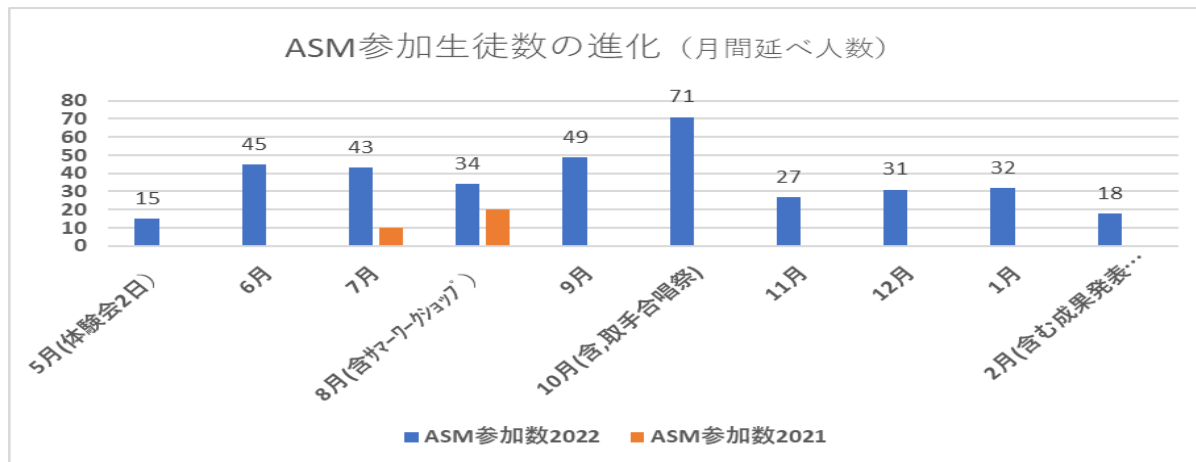
成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人 取手文化倶楽部		
所在地	茨城県取手市西2丁目2番G-412号	設立年	2022年
運営主体	特定非営利活動法人 取手文化倶楽部 アフタースクール・ミュージカル		
事業目標	<p>教師の働き方改革、少子高齢化の影響で、各学校での文化部活動の機会が減少する中、子供達がやりたい事が出来ない、という状況を改善し、彼らに文化芸術の学びの場を提供することに貢献したい、というのが動機・目的である。取手市及び隣接した市町の小中高校の生徒たちに、学校の枠を超えて、ミュージカルを通して幅広い総合芸術に向き合って貰い、それによって生徒さん達が心身共に成長し、更にその過程を父兄はじめ地域の住民と共有することで、地元の地域住民との交流に繋げること、が目標である。</p>		
きっかけ	<p>現在市内の中学校の部活を見ると、教師の負担軽減という学校の働き方改革の影響で、文化部活動が制限され吹奏楽部はあるが合唱部はない。歌を歌うことが好きな子供、興味を持つ子を受け入れる場はない。更に長引くコロナ禍の中、音楽の授業そのものが制約され、十分な指導が出来ない状況にある。そうした中、音楽や演劇の指導を受ける機会、それらの文化芸術を通して他校の生徒との交流が可能となる”場”の必要性を、強く感じた事が本事業を実施したきっかけである。前年度に引き続いての実施となる。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	部活の活動については、取手市福祉会館、及び取手市井野公民館等。運営会議についても同様だが、先に加え安価な会議室を賃借(取手中央タウン会議室等)		
活動概要	<p>1) 対象: 取手市及び近隣市町の小学5年～高校3年生の男女生徒 2) 期間: 2022年6月～2023年2月迄。原則として毎週木・日曜, 18:15から20:15の2時間 3) 部活: バレエダンス、合唱、ヴォーカル、演劇のミュージカル関連4部構成 4) 団対 内外の経験豊富な専門講師に委託して指導に当たる。5) 成果発表の機会として、取手市合唱祭参加、最終成果発表会を実施。尚、上記2)の期間に関しては、最終成果発表後も部活動を継続している。</p>		

○本事業による成果

2022年度に実施したASM事業は、実質的に2年度目であるが、前年度に比較し、全般的に格段の進歩が見られた。第一に参加した生徒さんの数が数倍になった事である。一方退部する生徒さんの数がさほど増加せず、期間を通して、一定数を継続して確保出来た。これは、ひとえに指導する講師の努力の賜物であり、部活の内容の質的向上が貢献している。子供達も部活を重ねる毎に成長し、次第に大きな声が出る様になり、アクションと歌が連動し、ミュージカルとして様になってきた。2022年度の取手市民合唱祭に、合唱部とヴォーカル部が参加したが、練習してきた、歌とダンスのパフォーマンスが好評を博した。



上掲のグラフに於いて、通常月は毎週木曜、日曜日が活動日である。従い通常は月7-8回だが、11月は4回、12月/1月は6回、2月は発表会を含め3回。尚10月は合唱祭のための特別練習日を含め10回活動。

ASM成果発表会での、生徒に対するアンケート調査結果（対象は当日参加の9名）

- ASMの全体的な感想 8: 非常に楽しかった 1: 楽しかった 0: まあまあ
- 2023年度も参加するか? 7: 参加する 2: 今は判らない
- どの部活に参加するか? 8: 演劇 8: 合唱ヴォーカル 3: ダンス
- コメント

- ・次は単独で演技してみたい。
- ・試しに参加したのだが、始めたら非常に楽しかった。続けたい。
- ・とても楽しかった。演技も上達したと思う。
- ・大変お世話になりました。様々な事を学びとても勉強になった。
- ・楽しかった。またいつか参加したい。・広い場所で大きな声で歌が歌えて、良かった。

内外講師による講評(抜粋)

・子供達が、自分自身で演劇の魅力に出会えるよう、それを伸ばしてあげようとレッスンを続けた。他の友達の魅力を見出す場となって欲しいと思う。月2回のレッスンだったが、生徒各自が自身の課題をもって参加してくれ、その結果成長の跡が見えた。

・レッスンの演目を、参加した子供達の異なる年代に合わせるため、苦心した。また欠席者の影響により、他の子供たちのテンションを下げぬよう様々なアプローチをした。その結果、生徒間の相互の信頼関係、良いコミュニケーションが生まれたのではないと思う。生徒たちは、歌いながら踊ることの楽しさ、難しさを感じて貰えたのではないかと。個々の声量は夏前に比べアップし、何かを表現しようとする姿が見られた。

・レッスンにおいては、緊張をほぐす為に、学校での様子等、雑談を交えて生徒と接してきた。コロナ禍にもめげず、一生懸命に向上しようとする姿に感動した。合唱したり踊ったり事が制約されたこの数年間は、子供の成長にとって大きな打撃だ。学校でできない事を、地域活動がカバーすることで地域が活性化することが実感できない期間となった。歌い踊る事は、人間形成には重要な基礎能力なので、基礎から積み上げてゆく事が重要だと思う。週2回の活動が望ましいのだが。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- 1)各部活毎に講師が日報を作成し、練習の内容、進捗状況をチェックする体制をとった。同日報は事務局側と共有し、生徒に何か問題等があれば即時対応するなどの措置をとった。
- 2)指導内容に関しては、実力・経験ともに豊富な専門の講師と契約しており、学校部活と同等若しくはそれ以上のレベルであると自負している。
- 3)周辺知識として、腹式呼吸法など基本的な発声方法等についてのアドバイスを適宜実施している。

○運営上の工夫

- 1)前述の通り、優れた指導者を講師として採用する事に努めた事。
- 2)通常の部活とは個別に、季節的なワークショップを開催するなどして、通常の部活動のリフレッシュを図ったこと。これは、新たな仲間の募集にも繋がる等一定の効果上げた。
- 3)広報上の工夫としては、月並みだが、近隣の6市町に後援を依頼し、広範囲な広報に努めた事。
- 4)厳しい財政的な制約の中で、部活の期間をできる限り長く、多くの回数を設定する事に努めた事。そして安価な活動の会場を追求する等、コスト削減に務めた事。
- 5)感染症対策、衛生面を考慮し、活動期間を通し、出来るだけ広い会場を使う事に務めた事。
- 6)コロナ禍もあり、緊急の打ち合わせ等の際には、スマホを活用してのオンライン会議を実施した。
- 7)活動場所に関しては、常に安価で清潔な場所・施設を採用した。
- 8)当団体は、全員がボランティア活動なので、事務局としての対応は輪番制にて労度の分散化に努めた。
- 9)助成金以外に資金が無い為、常にコスト削減を念頭において事業を遂行した。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

2022年度の我々の「アフタースクール・ミュージカル」(ASM)と称した活動は、実質的に初めて部活の地域移行をより強く意識したものとなった。そこで得られた経験、そして失敗を活かす形で、2023年度の事業は、以下の基本方針に沿って臨みたいと考えている。

I)アフタースクール・ミュージカル部活動の意義の再認識

学校教員の働き方改革によって、部活特に文化部活動が大幅に削減されている。我々はNPOの特性を最大限に活用し、部活活動の“受け皿”として機能することを目指す。即ち、地域移行への橋渡し役として機能するのが我々のミッションの一つと認識することが重要である。文化部活動を何とか地域移行させる事で、子供たちの例えば「音楽がしたい」という小さな夢を育むことのサポートがしたい。先日2022年度の最終成果発表会を終えたが、その時の、参加してくれた子供達の自信に満ちた笑顔、そして決して小さくない歓声、保護者たちの暖かい拍手、が耳に目に焼き付いている。彼らの笑顔が我々の活動の原点でもある。これを大切に育てて行かねばならない。取手市内の学校では、演劇部・合唱部が存在しない事から、当NPO取手文化倶楽部が担うという認識を新たにしたい。子供達もそれを期待していると信じる。

II)アフタースクール・ミュージカル第3年度目の活動方針

1)学校側との対話を進める

学校側とは、何度か接触しているが、文化部活動を地域的に移行してどう継続するのか、その段階的な移行における受け皿をどうするのか、等に関して、彼らの具体的な意図はまだ見えてこない。当法人がやろうとしている事への理解はあると思われるが、学校・社会教育の役割分担という観点からの、意識共有は不十分である。2023年度の最重要課題として学校、教育委員会との対話を継続する。アンケート調査も実施したい。

2)人材の確保と育成

2022年度のASM事業は、実質5人という小人数での対応となった。よく5人で踏ん張れたと思う。但し、本事業の継続性を考えれば、生徒の指導、事業の管理面を考えれば、人材、スタッフの質的・量的な確保、その育成は極めて重要と認識している。2023年度の重要課題である。

3)安全・責任体制の継続

本ASM事業は演劇と歌が中心であり、体を動かしながらの表現活動である。従い練習場所の安全性及び感染症・ケガへの対策には十分配慮しており、2022年度は最低限度の機能は果たした。この体制は当然ながら、2023年度も継続する。

4)ASM事業の安定性、継続性の確保のために

a)事業規模の拡大

安定性を参加生徒数と捉えれば、まだまだ参加数が少ないというのが実感であり、広報の方法、市及び教育委員会の後援をより有効に活用して、より多くの生徒を募集する必要がある。当然ながらそれは直接的に事業の継続性にも繋がるものである。

b) 活動場所の確保

現在、市の福祉会館、公民館等を使用。出来るだけ安価な場所を模索している状況であり、2023年度は、市施設の無料での開放を働きかける予定。主に学校の体育館等の解放の可能性を検討中だが、参加者にとっての利便性、治安確保等とのバランス等、検討すべき点は多々ある。

c) 部活動経費の調達

2022年度のASMは、NPOの事業としての取り組みに変わったが、助成金に全面依存せざるを得なかった。キッチンと事業を遂行しようとするれば、やはり相当の人件費が掛かってしまう。2023年度は、2022年度の実績を参考に、より精緻な予算を組む必要がある。また、助成金に全面依存の現状から脱却すべく、クラウドファンディングなどのファンドレイジングの検討が急務である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	一度でも在籍した生徒数は、サマーワークショップを含め、のべ19名(小学生3人、中学性11人、高校生2人)
	学校名	開智望小学校、取手二高、取手第二中学校、取手市宮和田小学校、戸頭小学校、取手市立藤代南中学校、取手小学校、取手第一中学校、龍ヶ崎第一高校、守谷市愛宕中学校、龍ヶ崎城西中学校
	募集方法	1)案内チラシの掲示(取手市の福祉会館、公民館、図書館等の公共施設に)スタッフが車等にて配布、2)同様に、取手市内、及び近隣市の小中学校、高校へのチラシ配布。3)当団体のホームページに掲載。
指導者	人数等	外部講師2名、団体内部の講師2名、アシスタントとして外部から4名、団体内部から2名(講師と兼任)
	募集方法	音楽の指導活動をしている、当団体の幹部のコネクション等を活用してリクルート。
参加者の移動手段		自家用車、公共交通機関、自転車、徒歩などによる。
活動費用	指導者謝金等	外部講師:10,000円/時、内部講師:7000円、外部アシスタント:1600円/1050円
	その他	1)福祉会館等の施設使用料(福祉会館、部屋によるが2,550円等)、2)井野公民館:780円~1,680円
活動財源	会費	部費として、一律1カ月3,000円(x9カ月)
	その他	特になし。
スケジュール	基本活動	毎週原則として木・日曜の2回(18:15~20:15)。この他、サマー・ワークショップ、取手市主催の市民合唱祭への参加。
	年間	2022年 5月 26/29 父兄説明会開催。通常活動:6月(2,5,12,16,19,23,26) 7月(3,7,14,17,21,28,31) 8月(4,7,11,14,18,21,25,28) 8月 8/9:サマーワークショップ 9月(1,4,8,11,15,18,22,25,29) 10月(2,6,9,13,16,20,23,27,29,30) 10月30日:取手市合唱祭、11月(13,17,20,27) 12月(1,4,11,15,18,25) 1月(8,12,15,22,26,29) 2月(2,5,12)
保険加入等		スポーツ安全保険(保護者負担ベース、小中学生:800円/年、高校生1,850円)

【活動の様子（写真添付）】

ASM広報の為のチラシ配布の準備作業。3万枚は半端ない！



【演劇の通常練習】



【成果発表会】



お疲れ様でした。充実の成果発表会でした。